



ONS（経口的栄養補助食品）を上手く活用しよう

緩和ケアチーム がん病態栄養専門管理栄養士 谷川 美斗

ONS(oral nutrition supplements:経口的栄養補助食品)は一般の食事に追加して栄養剤や食品を経口的に摂取することです。疾患の進行状況によっても栄養サポートの方法は異なります。手術後、化学療法、放射線治療など治療過程に依りて、様々な影響が生じ、食欲不振・食事摂取量低下がみられます。治療を継続していくために栄養状態・体重維持をすることは重要です。当院入院中は、付加食という形でONSを食事にプラスして提供できます。ONSを活用しながら健康維持の土台となる栄養を補いましょう。

当院採用中ONSの一部 ※メデイミルのみ100ml



ドリンクタイプ200kcal/本 125ml



125kcal/個

80kcal/個

200kcal/個

ゼリータイプ



100kcal/個

- ①メイバランス ヨーグルト(当院売店にあります)
- ②ジュシオ メロン
- ③メデイミル コーヒー牛乳
- ④メイバランス コーンポタージュ
- ⑤エンジョイカップゼリー あずき
- ⑥えねばくゼリー 白ぶどう
- ⑦カロリーメイト APPLE
- ⑧やわらか玉子豆腐

※味など詳細は約束食事箋をご確認下さい

必要栄養量

食事だけで十分に



ONS 土台となる栄養

入院中の患者さんで食欲不振がある際は、嗜好に応じてドリンクタイプ、ゼリータイプのONSを付加できます。ご希望の際は栄養管理課(2050)にご連絡下さい。



がんの痛みについて

緩和ケアチーム 緩和ケア内科医師 大場 秀夫

がんの痛みは病態によって侵害受容性疼痛と神経障害性疼痛の二つに分けられます(表参照)。侵害受容性疼痛は、局在があいまいで鈍い内臓痛と局在がはっきりした鋭い痛みとに分けられます。内臓痛は、医療用麻薬(オピオイド)が効きやすく、体性痛は、一過性の痛みの増強である突出痛に対する痛み止め(レスキュー)が重要になります。一方神経障害性疼痛は、体性感覚神経や神経叢への浸潤により電気が走るような痛みが特徴で、難治性で鎮痛補助薬が有効です。

痛みの性状と分類

	特徴	治療戦略	
侵害受容性疼痛	内臓痛	腹部腫瘍の痛みなど局在があいまいで鈍い痛み ずーんと重い	オピオイドが効きやすい
	体性痛	骨転移など局在がはっきりした鋭い痛み ズキッとする	突出痛に対するレスキューの使用が重要
神経障害性疼痛	体性感覚神経・神経叢への浸潤により、びりびり電気が走るようなしびれる・じんじんとする痛み	難治性で鎮痛補助薬を必要とすることが多い	

痛みの原因による分類

- ①がんによる痛み
- ②がん治療による痛み
- ③がんやがん治療と無関係の痛みに分けられます。

痛みのパターンによる分類

- ①1日のうち12時間以上持続する痛みである持続痛
- ②持続痛の強さは軽度にも関わらず発生する一過性の痛みの増強である突出痛

痛みに関する鎮痛薬は、定期的のむ定定期薬と痛みときのみ内服する屯用薬の両者の使い方に慣れることが重要です。

痛みはなるべく我慢せず日常生活を送れるように調整していくことが必要です。

緩和ケアチームメンバーによる
ゆるっとつらみ

麻酔科医師
原賀 勇壮

今年4月に赴任したばかりですので自己紹介します。「立派な臨床医でありたい」と思うほどに多くの壁に突き当たってきました。壁を乗り越えるためには研究をせざるを得ず、その中でいくつかの発見がありました。結果としてインパクトの高い論文や、いくつかの学会賞・特許の取得を経て、今は診療の傍らで、コロナ感染予防効果の高いフェイスシールドや、点滴注射を安全・確実にする道具の開発を行っています。また、出向先で行った研究で、癌の患者さんに、神経ブロックを用いた痛みの治療をする事で、価値ある寿命を延ばせる効果の可能性を見出せたので、論文化しているところです。

当院でも、こうした治療を必要で望まれる患者さんが受けられるようにするための努力を続けています。沢山の方々にご賛同ご助力をいただき、少しずつ環境が整って来ており、ありがたく思っています。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。



← 水害ボランティア全員が初対面。終了時には一丸となりました